

## リアルな体験

校長 相川 保 敏

長い夏休みが終わりました。今年の夏は、様々な催し物や行事がコロナ禍以前の形に戻り、多く活動、観光等をされたご家庭も多いかと思えます。

ここで、夏休みに行われました校外学習の様子をお伝えいたします。5・6年生は2泊3日の校外学習を昨年に続き実施いたしました。4年生は昨年度コロナ感染者数の拡大に伴い日帰り実施でしたが、本年度は予定通り1泊2日で実施できました。4・5年生は学校生活初めての宿泊的行事となります。本年度はこれまでに増して、仲間と一緒に「リアル体験」を大切にしました。

まず、6年生は7月18～20日に「諏訪湖の生活」を行いました。私は6年生に付き添いました。新たなリアル体験として、2日目はグループ単位で農家に分散して、農村体験を行いました。グループによって、田の草を抜いたり、野菜を収穫したりと異なる体験が行われました。中には、生き物を捕まえたり、調理をしたりしたグループもありました。農家の人とのふれあいや農村体験を通して、自然と共存していく農家の人たちの知恵や工夫、苦勞、そして人の温かさを感じ取ることができたようです。他の日には、牧場でリアルな模型による乳しぼり体験、ブルーベリー狩りも行いました。学校では味わえない活動をする姿は生き生きとしていました。



5年生は6年生と同日に「琵琶湖畔の生活」を行いました。1日目は、新たなリアル体験として手びねりによる信楽焼陶芸体験を行いました。苦勞しながらもオリジナルの作品を完成させました。その後は、琵琶湖博物館の見学、夜はキャンプファイヤーを行いました。2日目は、飯盒炊飯、カレー作りを行いました。慣れない手つきながら協力しておいしいカレーを作り上げまし



た。午後は琵琶湖博物館で調べたことを英語クイズにする活動を行いました。ネイティブ英語講師と共に英訳し、お互いに英語で出題、解答し合うことで、普段の英語力を発揮し合いました。最終日は、野菜を自ら収穫し洗って切って、みんなでバーベキューを楽しみました。初めての宿泊的行事でしたが、アウトドアを中心とした3日間の活動により、一人ひとりが自然を満喫しながら新たな思い出を作りました。

4年生は、ネイティブ英語講師とともに7月26・27日に「郡上の生活」に出かけました。1日目は河川環境学園で川の水質汚染の学習、食品サンプルづくり、大滝鍾乳洞



見学、夜はネイティブ英語講師による英語アクティビティと盛りだくさんな一日を過ごしました。二日目は、あゆパークで「イングリッシュラリー」「鮎つかみ」「ボードコール作り」を行いました。特に、新たなリアル体験として行った「鮎つかみ」は、多くの子が叫び声をあげながらも何とか捕まえて、塩焼きにして食べました。食べることで命のつながりを実感しました。

3学年とも、宿泊的行事を通じて一生忘れない思い出をつくとともに、少したくましくなったように感じられました。

また、4年ぶりにオーストラリアへの語学研修、ターム留学、そしてシンガポール親子留学も実施されました。英語の活用、異文化体験ができたようです。

こうした夏の貴重な体験が、これからの学校生活に生かされることを期待しています。

さて、9月の生活目標は「マナーについて考えよう」です。夏休みが明け、仲間と「協働する」学校生活が始まります。集団での宿泊的行事を経験した高学年は、集団でのマナーの大切さも体得していることと思います。こうした学びを生かし、低学年の手本となる行動や考えを示していけるとよいと思います。ご家庭でも「マナー」についてお子様と話す機会を設けていただければ幸いです。